

# 平成23年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 200

政策体系	41	事業分類	ソフト事業	所管部局	八木支所 健康福祉課
会計	一般会計	科目	3. 民生費 - 1. 社会福 - 2. 地域セ 現年		
事業名	地域交流活性化支援事業				
細事業名	東部文化センター地域交流活性化支援事業				
				評価表作成者	八木支所 健康福祉課 西岡 恭子

## 1. 事業の概要

小、中学生の野外活動、月2回の児童太鼓教室及び八木中学吹奏学部との児童交流事業やグランドゴルフ大会、親子工作の文化スポーツ交流事業の実施。  
 人権展では、講演の開催と幼児から高齢者まで、日頃の館活動や文化活動で取り組む作品展示や舞台発表を実施し地域住民との交流事業を行う。

## 2. 事業の目的と必要性

- ①施策で目指す目標との関連付け  
 各種事業を通じて、住民の相互理解を深め、人権尊重のコミュニティ形成を図る。
- ②事業を実施する必要性  
 交流事業を通じて、子ども達は、地域先輩から生きる力を学び、周辺地域の子どもと活動を通して互いに理解を深められる。また、人権展等館事業においては、その他周辺地域住民との相互理解が深まり、人権意識の高揚に繋がっていくため本事業は大いに必要である。

## 3. 事業費の推移

	単位	平19決算	平20決算	平21決算	平22決算	平23予算	平24計画	平25計画
決算額または計画額	千円	671	706	652	552	610	621	621
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	0	347	325	276	274	279
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	671	359	327	276	336	342
職員等の従事人員	人/年	—	1.00	1.40	0.10			
人件費	千円	—	3,048	3,998	833			
事業費総額	千円	—	3,754	4,650	1,385			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。  
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

## 4. 主な事業費の内訳

児童交流事業	351,109円（報償費、材料費、使用料等）
文化スポーツ交流事業	25,802円（報償費、消耗品費等）
人権展	175,010円（報償費、消耗品費等）

## 5. 事業結果の概要

野外活動を通じ自然に親しみながら仲間との連帯感が養われ、近隣地区児童との交流により、相互理解が深められた。  
 館事業による文化活動の成果を展示や発表を通して、幅広く地域住民相互の理解と交流が図れた。

児童交流事業

小学生川遊び	32人
中学生キャンプ	15人
小学生ハイキング	27人
児童太鼓教室	240人
クリスマス交流会	70人

文化スポーツ交流事業	
3世代交流グランドゴルフ	50人
親子工作教室	40人
人権展	441人

## 6. 活動の詳細

<b>(1) 地域力活用事業</b>		
人権展 人権講演会、幼児、小学生、中学生の作品及び舞台発表、PTA、婦人会、サークルの作品展示、及び舞台発表 延べ441人	平成22年12月4日～5日	文化活動の成果を展示や発表をとおして、幅広い地域住民相互の理解と交流を図る。
<b>(2) 文化・スポーツ交流事業</b>		
3世代交流ランドゴルフ 地元老人会の方に、ルール等指導を受けてランドゴルフを通じ交流する。	平成22年9月21日	スポーツを通して地域児童との交流並びに地域の高齢者との交流を図り、地域への理解を深める。
親子工作教室 人権展に出品する作品を親子で制作する。 40人	平成22年8月26日、10月27日	親子製作を通じ、作る楽しみや住民相互の交流を深める。
<b>(3) 児童交流事業</b>		
小学生川遊び 雨天により屋内プールでの遊びや市内博物館の鉄道特別展を見学した、工作活動で児童交流を図り相互理解を深める。 32人	事前7月26日、当日7月29日、事後7月30日	自然を大切にする心の育成と仲間との連帯感、近隣地区児童との交流を深める。
中学生キャンプ 川辺の自然を体験しキャンプ場で飯盒炊爨を行いテントによる宿泊体験を行う。 15人	平成22年8月10日～11日	自然愛護の精神と近隣地区生徒との連帯感を育み地域のリーダー育成を図る。
小学生ハイキング 山林への熊の出没により急遽変更し、琵琶湖博物館見学を実施。地元の大堰川水系に生息する天然記念物アユモドキの展示や、琵琶湖の歴史、淡水の生き物等を学びながら、野外活動を通して児童相互の交流を深める。 27人	平成22年11月24日	野外活動を通じ、自然に親しみながら仲間との連帯感を養い近隣地区児童との交流により相互理解を深める。
クリスマス音楽交流会 吹奏楽部の演奏を聴き、共に歌いゲームや対談をして交流する。 70人	平成22年12月24日	地元中学校吹奏楽部を招き、生演奏にふれ共に音楽やゲームを通して交流を深める。
児童太鼓教室 太鼓サークル「光」の指導で月2回練習し地元の夏祭りや市の行事への社会参加を行う。 10人（延べ240人）	毎月2回（水）3：30～5：00	太鼓を通じて児童の体力や精神力を養うと共に、伝統文化を学びながら仲間との連帯感を深める。

## 7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

- ① 児童交流事業では、卒業した先輩が中学部キャンプの指導者として参加するなど地域に指導者が育ってきている。
- ② 各事業が周辺地域からも多数の参加者となるよう今後も企画を含め、多数の交流の場を提供する。

### 【参考】過年度の評価

#### ■平成22年度の所属長評価

特に、児童交流事業では、卒業した先輩が中学部キャンプの指導者として参加するなど確かな育成が見られる。各事業が、周辺地域からも多数の参加者となるよう、今後も、企画も含め、多様な交流の場を提供することが大切である。

#### ■平成21年度の所属長評価

- ①事業執行にあたり議論を重ねた点  
新しい講座や新規の参加、ならびに若い人への参加の広報など
- ②当該事業のアピール  
地域及び周辺住民の交流を図り、社会的・文化的向上のため、人権問題の早期解決に向け た重要事業である
- ③反省点、今後の展開・方向性等  
新規を含め幅広い年代層の受講に向けた取組とともに、周知を図る